

花が輝くとき



先人の発想が生きる

たけふ菊人形は、昭和27年に始まりました。

当時、枚方市をはじめ明石市・名古屋市・綾部市など全国の数個所のまちで菊人形展が行われていましたが、北陸では初めてのことでした。

戦争の痛手が残っていた当時、尾崎稲穂市長（故人）は、町の活性化と観光物による産業を生み出すため、特色ある観光事業の核として、菊人形を打ち出したのです。経済的にもまちの状況からも厳しい中、菊人形事業は尾崎市長の英断と市民の協力で始まったのです。

高度経済成長を遂げ、物質的な豊かさを手中にした現在、全国三千を超える地方公共団体は、まちのイメージアップとして観光事業に力を注いでいます。

武生市におきましては、先人のすばらしい発想を40年の歴史を重ねる中で、「菊トピア」として進化させ、まちづくりを進めているところです。

「菊トピア」の原点とも言うべき、菊人形の歩みを武生市の歴史の一面として記録に留めるため、ここに刊行いたします。

平成3年10月

武生市長 小 泉 剛 康



▲菊をながめる尾崎元市長（故人）

ひらめきと決断から……あゆみ……

裁判所放火事件のあった昭和二十四年、その後二、三年は武生市にとって暗い苦しい時代でした。明るく楽しい町にしたいという願いは、市民の求めているところでした。

こうした中で、たまたま全国市議会議長会に出席した当時の市議会副議長蔭山真氏が、偶然枚方市議会議員の大西助太郎氏と席間になり、観光事業の話に花が咲いたのです。

大西氏は枚方菊人形のスタッフであり、毎年枚方菊人形の菊人形館制作を担当していました。

大西氏から「菊人形をやってみては」というヒントを得た蔭山氏は帰路綾部市立ち寄り

菊人形を見るに及んで、一層菊人形に対する情熱を深めて帰武しました。早速尾崎市長や議会に話し熱く働きかけたのです。

もともと、武生市は昔から菊づくりが盛んで、園芸クラブ、秋香会、国華会、菊友会といった菊づくり名人たちのグループがあり、秋には寺院の境内でそれぞれ丹精した自慢の菊を展示し技を競っていたのです。

蔭山氏から相談を受けた尾崎市長は、ジャーナリスト出身者だけに、ひらめきも決断も早かったです。



▲昭和30年代の菊人形会場

このようにして、「たけふ菊人形」にゴーサインが出ました。

西公園（現在の中央公園）の間借りで始まった菊人形は、今から見れば粗末なものばかりでした。

波板トタンぶきの見流館、中古木材で作った芸能館、その他仮設物で間に合わせていました。

もちろん、都市公園内には建べい率があり、余分な永久建築物は建ててはならないという規制があったせいでもありました。

その上、一面水田（一坪五百円で買収）であったところを埋め立てた急造地であったために、夏になるとススキや雑草が生い茂り、背たけ以上に伸び放題、夏虫やへびのねぐらになっていたのです。とうてい五人や十人の手に負える代物ではありませんでした。

この草刈り奉仕をするのが市職員の年中行事でした。

土曜日の午後等を利用し一列に並んでむせかえるような草を相手に一斉に鎌をふるいました。この作業は十年近くも続いたのではないのでしょうか。

草刈りを終えて、さっぱりした会場を見渡し、やがて秋の近いのを感じるのです。

発進する菊のまちづくり 菊トピア

菊人形前史 技術集団創生記 伝統の菊づくり

24

宣伝の変遷 ボンネットバスの宣伝カーから メディア時代へ ミス菊人形の歴史

26

菊人形館 覚えていますが 懐かしいあの場面

30

印刷媒体物

たどる…入場券・ポスター
パンフレット

2

イベントの歴史

プレーランド・大劇場・物産館
撮影会・サイン会 etc

10

よもやま話&DATA

17

菊人形ができるまで アツと驚く菊の効用 菊人形誕生秘話

インタビュー
菊花同好会長 山口 一

21

先人の発想が生きる……武生市長 小泉 剛康
ひらめきと決断から

第3回 昭和29年
(1954)

▼入場券



▲入場券

第2回 昭和28年
(1953)

菊人形見流し十場面
加藤清正・関根よし・古崎あけし・妹の木・岡田忠治・新島のかごや・森の石松・小栗山・日鳥の岡・野つかみ
演劇館・全国民謡の旗八景
風流小唄(京都)木曾路(本音)民謡(三浦)小唄(津島)ちやきり節(静岡)風田路(博多)おてもやん(熊本)武生音成(武生)
展示菊花コンクール
地元園藝技術者からの出品・出品料予想。約500鉢を収めて観賞会を開催する。
児童遊園・子供の国
国子供電気・丸車・飛行機・各種運動器具・白粉動小動物園等も併へまします。
野外第二会場
野外劇場大人・子供両・航空科学展等から貸与を受け適当な場所で開催する。
歴史と科学展
郷土物産展
農産物品評会

第1回 昭和27年
(1952)

◆パンフレット



▲入場券(原寸大)

菊人形の宣伝に欠かせないポスターやパンフレット、入場券の印刷物を時代ごとにたどってみました。
菊人形が始まってからの数年間は、テレビが普及していないこともあって、宣伝の中で印刷物は今以上に大きな役割を担っていました。

パンフレット一つとっても、表紙に細工を施し水族館に似せたものや、写真コンテストの優秀作品をポスターに使ったりと工夫を凝らし、時代を感じさせない、斬新なデザインも多くあります。

第6回 昭和32年
(1957)

▲パンフレット

▲入場券

第5回 昭和31年
(1956)

▲入場券

▼パンフレット

第4回 昭和30年
(1955)

▼ポスター



▲パンフレット



▲入場券



第10回 昭和36年 (1961)

▼パンフレット



▲入場券

第11回 昭和37年 (1962)



▲入場券



▲パンフレット

第9回 昭和35年 (1960)



▲パンフレット

▼入場券



第8回 昭和34年 (1959)



▲入場券

▼パンフレット



第7回 昭和33年 (1958)



▲パンフレット

▼入場券



第16回 昭和42年 (1967)



▲入場券

▼ポスター



第15回 昭和41年 (1966)



▲ポスター



▲入場券

第13回 昭和39年 (1964)



▲入場券

第12回 昭和38年 (1963)



▲パンフレット

▼入場券



第14回 昭和40年 (1965)



▲入場券

第22回 昭和48年
(1973)

▲ポスター ▼パンフと入場券

第21回 昭和47年
(1972)

▲パンフと入場券 ▼ポスター

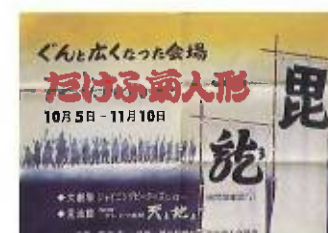
第20回 昭和46年
(1971)

DISCOVER JAPAN

▲ポスター ▼パンフと入場券

第19回 昭和45年
(1970)大劇場 夢のバラエティー
主催・武生市・武生商工会議所・福井新聞社

▲ポスター ▼パンフと入場券

第18回 昭和44年
(1969)

▲ポスター

▼入場券

第17回 昭和43年
(1968)

▲ポスター

▼入場券

第28回 昭和54年
(1979)

▲ポスター ▼パンフと入場券

第27回 昭和53年
(1978)

▲パンフと入場券 ▼ポスター

第26回 昭和52年
(1977)

▲ポスター ▼パンフと入場券

第25回 昭和51年
(1976)

▲ポスター ▼パンフと入場券

第24回 昭和50年
(1975)

▲パンフと入場券 ▼ポスター

第23回 昭和49年
(1974)

▲ポスター ▼パンフと入場券



第34回 昭和60年
(1985)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第33回 昭和59年
(1984)



▲パンフと入場券 ▼ポスター

第32回 昭和58年
(1983)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第31回 昭和57年
(1982)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第30回 昭和56年
(1981)



▲パンフと入場券 ▼ポスター

第29回 昭和55年
(1980)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第40回 平成3年
(1991)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第39回 平成2年
(1990)



▲パンフと入場券 ▼ポスター

第38回 平成元年
(1989)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第37回 昭和63年
(1988)



▲ポスター ▼パンフと入場券



第36回 昭和62年
(1987)



▲パンフと入場券 ▼ポスター

第35回 昭和61年
(1986)



▲ポスター ▼パンフと入場券



たどる

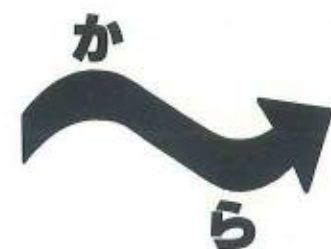
入場券・ポスター・パンフレット



ブランコ・すべり台が大人気 昭和28年



すべり台
ブランコ



仰ぐ天まで



幼い頃、この飛行機に
飛った人も多しはず



昭和29年



昭和31年



昭和43年

「たけふ弘報」によると、
「夢のような子供の天国 児童遊園地」と称して、飛行機、子供電車（電気汽車）、オートバイ競技、吊り下げ回転具、トンネルくぐりすべり台、ローラー式すべり台、回転式すべり台、三連シーソーが紹介されています。このほかにも、会場案内図にいくつかの遊具が紹介されていますが、多くは、電気を使わない運動遊具でした。
昭和三十年代前半には、回転ジープやワンダーホイル（ミニ観覧車）、ロマンスウェーバー、メリーゴーランドなどの自動遊具が登場しました。
三十年代後半になると、さらにチェーンタワーやムーンロケット、ゴーカートなど、機械的な遊具が主流になりました。

プレランド



昭和27年・こどもジープ



▲当時はこれがハイテク遊具？ 昭和37年



▲着物で菊人形に来る女性も多くいました。



昭和47年



昭和41年



昭和44年



昭和38年



段返館 昭和27年



雲井八重子一座 昭和28年



昭和36年、北陸一の文化センター
(大劇場完成)



アクロバットも登上 昭和46年



ダンサーの衣裳も華やかに……
昭和43年



段返し、助六から OSKライندگانスまで

大劇場（芸能館）

段返し・助六から

OSKライندگانスまで

菊人形が始まった当初、見流館（現在の菊人形館）と話題を二分したのが芸能館の段返しでした。

段返しは、いくつかの菊人形を取り入れた場面が、上下左右から代る出る仕組みで、段返しの幕合いに漫才や謡曲、芸人の手踊りなどの余興を披露する、現在の大劇場と菊人形館をミックスしたようなものでした。第一回のときの幕合いに行った演芸は、お茶を濁す程度でしたが、娯楽が少なく、テレビも今のように普及していなかった当時、観光客や市民の人気を集めました。

芸能館と呼ぶにふさわしい演芸をするようになったのは、第二回から雲井八重子一座が、段返しの舞台に合わせた「全国民謡の旅」を披露しました。県外の芸能一座と段返しの取り合わせは、昭和三年まで続きました。

少女歌舞伎や演劇（レビューショー）は人気を呼び、三六年には一〇回を記念して、当時北陸一の規模と舞台設備で評判になった、現在の大劇場が完成しました。

大阪歌劇団、SKD（ピータークラブ）、東宝ダンサーズ、松旭斎広子一行（奇術）、おたまじゃくし（ぬいぐるみ人形劇）、オーロラ・オン・アイスなどの一行が、大劇場でショーを繰り上げました。



段返し幕合を使つての手踊り 昭和27年



第三回目には演芸も充実 昭和29年



踊り手の後の菊人形に注目



昭和33年



仰天が登上 平成3年

観光客の大型でパラエティに富んだ遊具志向と、他の遊園地との競合から、五十年にはアストロファイターが、五一年には、モノレールカーとクレイジーカーが、そして五三年には大観覧車を新設しました。また、リースや委託による遊具充実も始まりました。現在菊人形で人気のあるジャングルコースターは五六年に、バイキングは六一年に新設しました。今年、菊人形四〇回を記念して、「仰天」が登場しました。



観光につきもの 武生のおみやげ 特産品を展示即売

展示してある物産も様々。工業製品もいろいろと。



昭和51年(現在のチビッ子遊園地)



工芸指導所を借りて物産展示 昭和27年



大型テントでの産業パピリオン

昭和62年

昭和二十七年、「郷土物産展示会」として、菊人形会場横のあった武生工芸指導所(工業試験場の前進)で行いました。武生、丹生・今立・南条郡下の物産を県内外に宣伝する、販路拡大が主な目的で、会期も十一月一日から一五日だけでした。会場が手狭だったこともあり、公会堂で開いたこともありました。

現在のように、物産館として会場に設けたのは三〇年からで、翌年度には、物産館にも約十万人が入館しました。現在のように大型テントによる産業パピリオンになったのは、五六年です。友好都市高山市の物産展や日中友好協会による中国の物産展も行い、年々にぎやかになっています。



工夫いろいろ 多彩な催しもの

二九年*陶器展

*菊まつり

三一年*武生菊花同好会菊花コンクール始まる

三三年*ラジオ福井公開録音「歌う快速列車」

*自衛隊武器写真展

*北陸三県菊花コンクール始まる

*大宝くじ

三五年*サボテン展示会

*バラ園

三六年*大バノラマ日光展(日光東照宮などの国宝建築物を、模型で再現)

三八年*モンキーハウス

四二年*焼物コーナー

四八年*錦鯉展示会

*モデル庭園展示会

四九年*野点(日・祝日)

*民芸品展示会

*工芸祝菓子展示会

*タバコ吸いあてコンクール



日本の奇術「滝の白糸・水芸」 昭和49年



日本魔術団 昭和54年



昭和63年



OSKの華 ラインダンス

平成2年

野外劇場今・昔

昭和35年



昭和57年



野外劇場(ステージ)

第二回に設けられた野外劇場。当初は、演芸内容もお粗末なものでしたが、三回、四回目あたりから芸能館とは違った、笑いや気軽な雰囲気、演芸路線を歩みました。現在の野外ステージは、四五年に造ったものです。

芸能館は、大劇場完成後も四四年まで、一時途絶えはしたものの野外ステージと共に、漫才や歌謡ショー、曲太鼓、地元芸能などで観光客を楽しめました。

よもやま話

&

DATA

第6回～第10回

1957 ～ 1961

第6回（昭和32年）

開催期間 10月5日～11月15日

入場者数 144,291人

入場料金 大人：130円 子供：60円 前売券：100円

第7回（昭和33年）

開催期間 10月5日～11月23日

入場者数 136,851人

入場料金 大人：130円 子供：60円 前売券：100円

第8回（昭和34年）

開催期間 10月5日～11月15日

入場者数 131,444人

入場料金 大人：130円 子供：60円 前売券：100円

第9回（昭和35年）

開催期間 10月10日～11月20日

入場者数 136,554人

入場料金 大人：130円 子供：60円 前売券：100円

第10回（昭和36年） 大劇場新築

開催期間 10月10日～11月20日

入場者数 142,370人

入場料金 大人：150円 子供：70円 前売券：120円

第1回～第5回

1952 ～ 1956

※入場者数…有料入場者数を示す

第1回（昭和27年）

開催期間 10月10日～11月15日

入場者数 103,710人

入場料金 大人：100円 子供：50円 前売券：80円

第2回（昭和28年）

開催期間 10月10日～11月15日

入場者数 122,744人

入場料金 大人：100円 子供：50円 前売券：80円

第3回（昭和29年）

開催期間 10月5日～11月15日

入場者数 134,631人

入場料金 大人：120円 子供：60円 前売券：100円

第4回（昭和30年）

開催期間 10月5日～11月15日

入場者数 139,796人

入場料金 大人：120円 子供：60円 前売券：100円

第5回（昭和31年）

開催期間 10月5日～11月15日

入場者数 165,175人

入場料金 大人：120円 子供：60円 前売券：100円



思い出をSHOT撮影会 あこがれのスターサイン会

撮影会

写真懸賞募集は、昭和二九年から行いました。当時は、黒白写真で菊人形会場と、市内での雰囲気表現した写真が対象で、併せて写生大会も開きました。

大手写真材料メーカーとの共催で、モデル撮影会を行うようになったのは、昭和三〇年からでした。三〇年代には、写真ブームも手伝い多いときには七〇〇点を超える応募があり、北陸一の規模を誇るコンテストに成長しました。

四九年に水沢アキ、五〇年代は小林麻美、岸本加世子、叶和貴子といったスターや、ミスインターナショナル日本代表などがモデルとして訪れ、カメラマンを釘付けにしました。

また、仮面ライダーなどの、その時代に子供たちに人気のあったキャラクターが登場する撮影会もありました。

スターサイン会

五〇年代は、NHKの協力もあって



岸本加世子撮影会
昭和54年

見流館のテーマにしていたNHK大河ドラマに出演していた大物俳優が、次々に菊人形のサイン会に訪れました。加藤剛、真野響子、多岐川裕美、山口崇、池上季実子、松平健、永島敏行、東てる美、役所広司など豪華な顔ぶれで、スターを一目見ようと多くの観光客が訪れました。



当時は乗用車もめづらしかった 昭和38年



仮面ライダーも撮影会に登場 昭和49年



小林麻美 撮影会とサイン会
昭和50年

- *アマチュア無線局開局
- *盆栽展示
- 五〇年*日本鶏三〇種展示
- 五一年*正面風景花壇
- 五二年*NHK FM公開録音、FBC 生放送
- *手造り飛行機（北の星）展示
- *孔雀展示
- 五四年*紙すきの実演
- *NHKおかあさんといっしょ
- *ちびっ子サファリランド
- 五五年*菊の造形「象の散歩」
- *菊花壇「菊の花」
- *手芸品展示即売会
- *子供野外美術展
- 五六年*子供見流館 マンガ大行進
- *たけふ刃物まつり
- 五七年*子供見流館 動く恐竜展
- 五八年*子供見流館 ロボットカーニバル
- 五九年*タイムトンネル
- 六〇年*シネラマ2000
- *ミステリーハウス
- 六一年*東映ミニ映画村
- *広域産業館
- 六二年*ワンダーハウス
- 六三年*忍者魔界屋敷
- H、元年*チビッコ遊園地
- 三年*全日本菊花大会
- *世界の菊展示
- *市民の菊展示

寒さに負けず一番乗り

(昭和二十九年)

菊人形第二回、三回と一番乗りした人は、丹生郡宮崎村の近藤幸雄さん(当時二十四歳)。

朝五時に起き、自転車で会場に着いたのが六時。開場時間の九時までで門前でがんばっていましたが、肌食い込むような秋の寒気に閉口したそうです。近藤さんは、今大阪に住んでいますが、当時の感想などを聞きました。

「あのころは地方に大きな催事がなかったこともあって、菊人形は毎年楽しみにしていました。今は家内(真子さん)が孫を連れて毎年行っています。孫の写っている会場をみると、昔とはずいぶん変わっているのびっくりしました。こちらでは近くに枚方菊人形が開催されていますので、時々行って、武生の菊人形を懐かしんでいます。アドバルーンに搜索願ひ

(昭和三十一年)

武生市役所屋上に掲げられていた、「たけふ菊人形」宣伝のアドバルーンがおりからの突風でロープが切れ、南の方へ飛んでいってしまいました。市では直ちに武生署へ搜索願ひを出したそうです。ちなみにアドバルーンの損害額は当時のお金で三万円だったそうです。



案内嬢は苦勞する嬢(シヨウ?)

(昭和三十一年)

当時の見流館には、各場面を説明する案内嬢がいきましたが、なかなか苦勞をしていました。

お客の中の歴史の先生からはいろいろな質問をされたりして冷や汗かいたり、説明をするために長い列になったり、それと避けるために説明をしないとお客から怒られたりといへんな苦勞があったようです。「でも、説明している間、ウンウンとうなずいて聞いているお客さんを見ると、やりがいのある仕事だなあと思いました。」とは、当時の案内嬢の弁。

よもやま話

見物客

国鉄駅長に抗議

(昭和三十三年)

一月三日の国鉄武生駅は菊人形見物客で平日の二倍近くの乗降客があり、列車に乗れなかった客がホームで乗客大会を開き、代表者が武生駅長に抗議をしました。同駅では、この混雑を予想して増発を金鉄局に要請したと返答、しかし、納得できない乗客からは非難が轟きました。

結局、一時半後の列車に乗ることになりましたが、どの列車も鈴なりの乗客で、窓から入り込んだり、デッキにぶら下がるなど戦時中のような風景が見られたそうです。

菊人形ノイローゼ?

(昭和三十五年)

いくら菊人形が好評を博しているといっても、気になるのはお天気。

当時の森市長も天気のことになって、菊人形開催中は必ず夜中に二度も目を覚ますようになってしまったそうです。目を覚ますと同時に耳をそばだて戸外のような音が、雨だれの音がしてないとまた布団にもぐり込んで眠りについたそうです。

初代ミス菊人形三名決まる

(昭和五十二年)

九月一日、市体育館で、「ミスたけふ菊人形」コンテストと島倉千代子ショーが開かれ、約五千人の観客でにぎわいました。県内在住の一八歳以上の未婚女性の参加を募ったところ、百六人の応募があり、うち六七人のお嬢さんたちがコンテストに参加しました。

その結果、武生市からは森本さん、炭屋さん、三国町の西岡さんの三人が初代ミス菊人形に選ばれました。

当時の賞は、賞金五万円、トロフィーのほか五十万円相当の豪華な品物が贈られました。

よもやま話



第26回～第30回

1977～1981

第26回(昭和52年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 125,196人
入場料金 大人:700円 子供:350円 前売券:600円

第27回(昭和53年) 市制30周年記念

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 120,850人
入場料金 大人:800円 子供:400円 前売券:700円

第28回(昭和54年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 121,211人
入場料金 大人:800円 子供:400円 前売券:700円

第29回(昭和55年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 100,646人
入場料金 大人:900円 子供:450円 前売券:800円

第30回(昭和56年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 137,800人
入場料金 大人:1,000円 子供:500円 前売券:800円

第21回～第25回

1972～1976

第21回(昭和47年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 100,646人
入場料金 大人:380円 子供:190円 前売券:350円

第22回(昭和48年) 市制25周年記念

開催期間 10月15日～11月10日
入場者数 88,953人
入場料金 大人:400円 子供:200円 前売券:360円

第23回(昭和49年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 112,198人
入場料金 大人:500円 子供:250円 前売券:430円

第24回(昭和50年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 112,852人
入場料金 大人:600円 子供:300円 前売券:500円

第25回(昭和51年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 117,159人
入場料金 大人:700円 子供:350円 前売券:600円

第16回～第20回

1967～1971

第16回(昭和42年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 97,369人
入場料金 大人:260円 子供:130円 前売券:220円

第17回(昭和43年)

開催期間 10月4日～11月10日
入場者数 81,237人
入場料金 大人:280円 子供:140円 前売券:250円

第18回(昭和44年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 106,663人
入場料金 大人:280円 子供:140円 前売券:250円

第19回(昭和45年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 97,497人
入場料金 大人:330円 子供:165円 前売券:300円

第20回(昭和46年) 見流館新築

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 102,971人
入場料金 大人:330円 子供:165円 前売券:300円

第11回～第15回

1962～1966

第11回(昭和37年)

開催期間 10月10日～11月15日
入場者数 114,311人
入場料金 大人:150円 子供:70円 前売券:120円

第12回(昭和38年) 市制15周年記念

開催期間 10月10日～11月15日
入場者数 118,759人
入場料金 大人:180円 子供:90円 前売券:150円

第13回(昭和39年)

開催期間 10月10日～11月15日
入場者数 109,522人
入場料金 大人:180円 子供:90円 前売券:150円

第14回(昭和40年)

開催期間 10月10日～11月15日
入場者数 103,007人
入場料金 大人:200円 子供:100円 前売券:170円

第15回(昭和41年)

開催期間 10月5日～11月10日
入場者数 107,598人
入場料金 大人:260円 子供:130円 前売券:220円

五八豪雪 大劇場倒壊

(昭和五六年)

一月一六日午後一時半ごろ、市文化センター中ホール(菊人形大劇場)が屋根に積もった雪の重みで倒壊しました。

「ドーン」という大音響とともに崩れ去った大劇場。かまぼこ型の屋根が完全に抜け落ち内部からは空が見え、残ったのは四方の壁だけとなりました。

しかし、十月の菊人形オープンまでには内装なども充実して、無事お客さまを迎えることができました。

こぼれ話

アラカルト

(昭和五八年)



日曜・祝日には一日平均二十人ぐらい。三歳以上から小学生低学年の子供が中心。泣きじゃくる純情型や、黙秘を決め込む反抗型のほか「お母さんと呼び出して下さい」と、親を捜すチャッカリ型も。



主不明の遺失物が五十点余り。ハンカチ、帽子、セーター、バッグ、財布、水筒などは序の口、ベビーカーやミルクの入った哺乳瓶、靴の片方など。どうしてこんなもの忘れられるのでしょうかね。



腰の曲がったおばあちゃんが一人でジャングルコースターに。下でハラハラして見ている係員が感想を聞いたなら「ああ、おもしろかった。おかげで腰が伸びたよ」といって年を聞いたら「レディに失礼でしょう」。

よもやま話

菊人形ができるまで

菊人形は、裏方さんたちの力が一つになって完成するものです。

まさに、裏方さんたちの苦勞が、菊の花を咲かせるといえます。

それでは、菊人形ができるまでの流れをご紹介します。

園芸師



今年の菊人形のために、園芸師は昨年頃から菊づくりにかかりつぎです。一年中息をつく暇もありません。

小菊には、早咲き、おそ咲きの二種類があります。栽培は、日照時間を短縮させたり、人工的に照明を使い、明るい時間を長びかせたりする方法で開花時期を調整します。

人形師

〈骨格をつくる〉

下絵をもとに人形づくりが始まります。三・三センチ角の木で骨格を形どります。ただの木も人形師の手にかかれば、血のかよった人間のように生まれ変わってきます。

〈首をつくる〉

骨格をつくる一方、人形師の磨きのかかった腕は首を手がけます。男女の別、年齢差はもちろん、人形の性質や感情を表現する、いわば魂を入れる繊細な作業です。

菊師

〈胴殻をつくる〉

人形の骨格は菊師の手に移り、衣裳の下地となる胴殻が付けられます。用意された巻わらで人形の肩の線、着物のえり元、そで口と形づくっていくのはたいへんな労力。この道二〇年のベテランさえも一日一休できれば上々。

〈菊付け〉

いよいよ開催日が近づくに菊づけが進められます。まるで錦絵を描くように色彩豊かに着飾ってゆく菊師。人形一体に使われる小菊は約百五十株。

〈仕上げ〉

首が付けられ、完成した人形が、それぞれ舞台に立ったとき、その精彩を放った姿は、思わず息をのむほど。



第31回～第35回

1982～1986

第31回(昭和57年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 147,292人

入場料金 大人:1,000円 子供:500円前売券:800円

第32回(昭和58年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 134,390人

入場料金 大人:1,000円 子供:500円前売券:800円

第33回(昭和59年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 130,965人

入場料金 大人:1,200円 子供:600円前売券:900円

第34回(昭和60年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 126,088人

入場料金 大人:1,200円 子供:600円前売券:900円

第35回(昭和61年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 123,859人

入場料金 大人:1,200円 子供:600円前売券:1,000円

第36回～第40回

1987～1991

第36回(昭和62年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 127,417人

入場料金 大人:1,200円 子供:600円前売券:1,000円

第37回(昭和63年) 市制40周年記念

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 116,875人

入場料金 大人:1,200円 子供:600円前売券:1,000円

第38回(平成元年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 126,263人

入場料金 大人:1,300円 子供:650円前売券:1,000円

第39回(平成2年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場者数 122,994人

入場料金 大人:1,300円 子供:650円前売券:1,100円

第40回(平成3年)

開催期間 10月5日～11月10日

入場料金 大人:1,300円 子供:650円前売券:1,100円

菊人形は生き物



人形師は鮮度を保つため、根付きのまま、一日一回は水苔で巻いた根元に水やりをします。会期中、細口のじょうろで水差しをする光景がしばしば見られます。こうすることで菊の寿命を七日から十日もたせることができます。

菊人形 一体当たりの株数は

人形はほぼ等身大ですから、一体につき約百二十株から百五十株の小菊が必要です。菊の衣裳は会期中四回から五回着せかえます。したがって期間中一体当たり約七百株、菊人形は約四十体ありますから人形菊だけでおよそ三万株いる勘定です。

アツと驚く菊の効用

美しい花を見れば、だれもが心とむもの。菊は清楚で気品のある花ですが、「見るだけではなく」おいしく健康食品として見直されています。

市内の農家では、切り花に加え食用菊の生産も取り組んでいます。併せて、市内のグループや飲食店でもおいしい菊の食べ方の研究が進んでいます。菊ごはん、菊グラタン、菊シューマイ、菊そば、酢の物などいろいろな料理に使われています。

健康食品

食用菊のヘルシーパワー

食用菊は解熱作用があり古くから漢方薬として利用されています。頭痛、めまい、口が苦い、頭がぼてるといった症状に効果があり、自律神経を安定させるといわれています。毎日食べることで、高血圧、狭心症、脳動脈硬化症の予防効果があり、最近では老人性痴呆にもよいのではといわれています。

他にも、菊の葉を絞って皮膚をマッサージすると、アカギレやシモヤケにも効くといわれています。菊を乾燥させて枕に詰めた「菊枕」は、安眠を促すともいわれています。

つまりは、見てよし食べてよし菊の花ということです。

菊人形誕生秘話

市職員OBで菊人形に携わった人に、創設当時の苦労話などについて伺いました。



は他県にはない七本立ての技術が受け継がれておりました。戦前は、確か市内に菊づくりの好きな人たちがつくられたグループが四つほどあったと思います。それが、戦争が激しくなり菊づくりどころではなくなり、戦後は演芸倶楽部と秋好会の二つだけになっていました。二つのグループは、秋ともなると市内の大寺院などを会場に菊花展を開き、互いの技を競っていました。



宮脇 豊三さん
北千福町
大正 8年12月 5日生

たことなどが載っています。しかし、毎日精根込めた武生の人形菊は、水谷氏の苦労が実り三、四年後には枚方市に負けない菊との評価もできました。

水田を 三ヶ月で菊人形会場に

後日談ですが、水谷氏も菊づくりは自信もあったようですが、趣味でやってきたそれまでとは違い、人形菊を作るのも初めてですから苦勞したようです。先進地の明石市へ研修に出かけ、人形菊の苗をもらって育ててきたようです。新聞に掲載された記事を読むと、シンのつみ方や採光法などを明石市の菊研究家に教わったことなどが載っています。



十万人が成功の鍵

映画館で菊人形の成否をリサーチ。菊人形のきっかけは、細かなところでは諸説がありますが、当時の市議会副議長蔭山真氏が、尾崎稲穂市長に菊人形をやってみないかともちかけたことのようにです。尾崎市長は、戦後も暗い事件が起きるなど暗い市政の中で、なんとか明るいまちをつくりたいという願いから菊人形開催を決断したのだと思います。

菊人形は、東京・名古屋・京都・大阪といった大都市圏内では、戦後の暗いイメージの中で明るい話題としてブームになりつつあったようで、時の新聞などでも読んだような気がします。しかし、北



宇右工門さん
前田町
明治 45年 3月 1日生

菊愛好家たちの団結

一方、菊人形事業本体にはまず菊がなければ話にならないわけですが、武生には昔から菊づくりの伝統がありました。特に、武生に

菊人形パンフレット 東京、大阪まで広告探し

事業本体と並行し、宣伝のためのパンフレットやポスターといった媒体物も初めての経験で、手探りでした。

尾崎市長自ら、東京・大阪の大手企業を回り、広告を募りました。ともあれ、なんとか菊人形開幕にこぎつけたわけですが、会場は三千坪と今から考えれば相当狭いものでした。児童遊園地も今から比べればお粗末ですが、遊具施設に飢えていた子供たちには好評だったようです。

目標達成 十万人

十一月十五日に、第一回菊人形が開幕を迎えましたが、入場者数は十萬三千七百人と成功と言える数字でした。

こんな調子で、菊人形の歴史が始まったわけですが、この後もなにかと苦勞はありました。



西山 幸信さん
住吉町
大正 14年12月13日生



近藤 一郎さん
北府三丁目
大正 13年 6月22日生



会場が今のよう公園として整備される前は、真夏に生い茂る草を一生懸命むしったものです。宣伝先でたけふやしを踊った

裏話になりますが、セスナ機に市職員が乗り込んで宣伝ビラを撒き、ひどく酔ったこともありました。テント張りで職員がソバを作って売ったりしましたが、なにせ素人、評判が悪かったですね。



加藤 秀徳さん
柳町
大正 14年 1月 9日生

り、幻灯機で菊人形を披露したりいろいろやりました。子供たちに喜んでもらおうと、マントヒヒを枚方から連れて来る計画を立てましたが、残念にも輸送の途中で逃げられ、射殺ということもありましたね。

四十年という半世紀近くも、菊人形が続いたわけですが、人形菊がうまくできずに、ほかの菊人形へ菊を買いに行ったり、とにかくいろんな苦勞がありました。正直、赤字で真剣にもう止めてしまおうとの声が上がったこともありまし

新鮮なものを 提供することが、これからの鍵

いつの時代も、こういうイベントは難しい面が多々ありますが、大切なことはいかに毎年新鮮なものをお客さんに提供できるか、時代の先端をいく若者をひきつけられるかが、鍵になると思いますね。

家族の和が、菊づくりの秘訣

武生市菊花同好会 会長 山口 一さん
畑町・明治41年12月18日生



菊づくりを始めたのは、昭和八年。当時武生には、菊づくりの好きな人たちがつくるグループが四つもあり、腕を競っていました。織田信長が、一向一揆を討伐するため府中（武生）にやって来たとき、竜門寺に陣をとり菊花宴を開いたという言い伝えがあるほど、武生には菊づくりの伝統があり、脈々とその技が受け継がれていたのです。わたしは、演芸倶楽部の三好吉兵衛氏（沢町・故人）に奨められ、苗をもらって始めました。戦時中は、菊づくりはぜいたくとして「国賊」のように見られたし、「花」よりも「いも」の時代でした。自分自身も戦争に出兵するなどして一時つくれないときもありました。菊づくりは、基本を習った後は自己流。書道と同じ、自分の癖が花に現れます。もうこれで良いということはなく、一生が勉強です。菊づくりは手がかかり、家族に迷惑をかけることになりません。家族の和が大切で、協力してもらえなければ長続きしません。二五〇鉢作り作っていますが、年中毎日菊づくりの作業があり、家族が手伝ってくればこそと感謝しています。武生菊花同好会は、八七人。会長として一番気を使うのは、会員同士の和です。八〇歳代の会員も多くおり、後継者の心配はありません。菊作り五八年、いろいろな所へ研究に出かけ、日本中の多くの仲間たちと出会いがあり、和ができたことがわたしにとって何よりの幸せですね。

栄華 天覧の菊

この天覧菊は、一月の初めに武生公会堂や正覚寺、本興寺で一斉に開催された武生秋香会の一五回記念菊花陳列会々場、園芸俱樂部、新興國華会の各菊花展にも陳列され、武生町空前の壮観となり町民の目を楽しませました。

武生の最初の同好会は、大正八年に結成された「武生秋香会」で、大正一二年の会則によれば、その目的は、養菊の知識を研究するために毎年会員が栽培した菊花を一定の場所に陳列して品評し、同時に一般の人々にも愛菊の趣味を普

の投票方式が継続されました。

一方、秋香会は第七回の菊花陳列会を正願寺で開催し、普通花一〇五、懸崖一四、切花二一鉢、競技花一九、大作三鉢はいずれも見事で、それぞれに審査され、名譽總裁平侯爵の巡覧も行われました。

善光寺通り菊花陳列 大正6年10月

昭和17年 第24回菊花陳列会

昭和一二年に日中戦争が勃発し、非常時体制に入ると、菊花展も華々しく開けなくなり、武生秋香会は会場を奥村医院前の看護婦養成所に移して質素に行い、翌一三年の菊花展は中止と決めました。園芸倶楽部は正覚寺で例年通り開催しましたが、こうした中で国華会がその活動を中止したようであり、戦後まで活動を継続しえたのは、武生秋香会と園芸倶楽部の二つの有力な愛好会だけとなりました。

正)には、菊花陳列会の規定が定められ、大輪花は五輪仕立以上、切花は花茎曲尺一尺八寸とすることになっていました。

昭和一〇年に、北陸タイムス社主催の第一回菊花観賞会が、武生町内外の菊花愛好者を対象に行われましたが、この時の競技花「海王星」は、尺二寸鉢七輪立で美と技を競うものでした。武生での菊花展では、同好会発足当時から五輪立以上、七輪立があたり前になつていたのです。

菊の花を盃に浮かべて長寿を祝

り菊花の盃、菊の露を飲んで不老不死になったといわれる菊慈童、重陽の節句の前夜、菊の花に綿を吸ってその露や香を移しとり、翌朝その綿で身体を拭うと長寿を保つという菊の被綿きわたなど、昔から菊花には長寿を保つ霊力が備わって

趣味を超え、伝統を生かしながら菊作りに生命をかけてきた人たちが、武生にはたくさんいました。昭和二十七年に「武生菊人形」を創設した尾崎市長も、こうした武生の菊作りの伝統を生かして、戦後の荒廃した人々の心に美しい夢を与えたのでしょう。

「美しいものを美しいと思えるあなたの心が美しい」（相田みつを）まさにそのような人たちの力によって武生菊人形が生まれ、支えられてきたのです。

昭和二年の秋、第三四回を数えた武生秋香会菊花陳列会と園芸倶楽部の菊花展が終了した時点で二つの同好会が合同して武生菊花同好会が誕生しました。

菊の花が妍を競うように、三〇年来、互いに技術を競ってきた人たちの力が一つになったわけです。

武生菊人形の開催に協力し、米寿を迎えた会員は名誉会員とする。と会則にうたった武生菊花同好会の初代会長には、親子二代の菊づくりで知られる斎藤幾一さんが就任しました。

越前万歳

たけふ菊人形と菊トピアの萬歳
(たけふ菊人形四〇回と
菊のまちづくりを記念して)

(太夫) サ、これよりたけふ菊人形のめでたいところを、越前萬歳で、エッサラサンとはやしこんでおいでなさい

(才藏) なーか、なーか、よろしーござんしよ

(太・才) エンヤー

(太夫) サ、一三〇〇年の昔から越前の国、国府とて、栄え賑わう武生には、名所や名物数あれど、武生と言えは菊人形

(才藏) アッサレーヤレヤレ、歴史の古い武生には、名所や名物多けれど、何といつても、菊人形じゃ

(太夫) サ、武生の名物菊人形今年数えて四〇回、見た人、来た人、一千万、今年の目標、百万人

(才藏) アッサレーヤレヤレ、今年数えて四〇回、見た人来た人、一千万とは、そりやまためでたい結構なことじゃ、ヤレヤレ萬歳じゃ

(太夫) サ、まちをいどる菊の花、花の薫りもふくいくと、武生のまちじゅう菊いっぱい、駅も道路も埋めつくす

(才藏) アッサレーヤレヤレ、武生のまちじゅう、菊いっぱい、電車もバスもフル運転、菊人形へ

とつめかける

(太夫) サ、精根込めて作られた菊の花はいろいろと、千輪菊に、大懸崖、大菊や小菊など、ところせましと五千鉢

(才藏) アッサレーヤレヤレ、なんとマア五千鉢、大菊、小菊とどりに、においゆかしい花くらべ、日本の心の花が咲く

(太夫) サ、奈良、平安の昔から菊は栄える国の花。代々に伝わるご紋章。和歌に俳句に菊の香りや、君子の花の気高さよ

(才藏) アッサレーヤレヤレ、菊は栄える国の花。国の政治の議員さんの、胸に光るも菊の花

(太夫) サ、菊をまとった、菊人形、年ごとテーマは変わるけど、今年もナント太平記、南北朝の美男、美女、時代絵巻の美しさ

(才藏) アッサレーヤレヤレ、武生美人をそのままだ、おらが女房に似た目もと、おらが女房も日本一

(太夫) サ、街の天狗の鉢植え、鼻も高々日本一、豪華なイペント目白押し

(才藏) サ、マダマダ

(太夫) 全日本菊花大会

(才藏) サ、マダマダ

(太夫) 世界の菊の大展示

多くの人に「たけふ菊人形」を知りたい。そのために不可欠なのが宣伝活動です。

当初は、宣伝車による広報、飛行機によるビラの散布、アドバルーンを掲げたりしていましたが、時代とともに宣伝方法も変わってきました。

現在は、主にメディアを利用し、テレビ、ラジオなどによる宣伝を県内外で行っています。当時の宣伝隊もなかなか苦勞していたようですが、時代を追って、宣伝活動の様子について紹介します。

ボンネットバスの宣伝カーからメディア時代へ

もつと人を、もつと宣伝を

福井新聞社との共催なる

(昭和二十九年)

菊人形入場者数は、第一回十萬三千七百八人、第二回十二萬二千七百四十四人と順調な滑り出しでした。しかし、当時は武生市だけで主催していたため、会場の事業だけで精いっぱい状態でした。

入場者をこれ以上増やすためには、宣伝活動をもっと充実する必要がある。また、当時の他市の菊人形を参考にすると、いずれも地元新聞社が協力していることを考え、第三回から福井新聞社との共催が実現しました。

第三回菊人形を開くにあたって、福井新聞社は社告を出したのをはじめ、飛行機、宣伝車、広報車を繰り出し、宣伝は、一回に比べて非常に幅広く行いました。

可愛い手踊りで訪問

(昭和二十九年)

十月二日、三日、舞踊の「たけふ乙女会」の可愛いお嬢さんたちが福井新聞社のニュースカーに乗って各地を訪問しました。

福井市では、福井新聞社前、駅前などの目抜き通りで「菊づくし」の曲に合わせて可愛い手踊りで、菊人形の宣伝を行いました。

浦島太郎が宣伝マンに?

(昭和二十九年)

菊人形オープン後の十月六日、菊人形を天下の菊人形にしようと、事務局では福井市をはじめ各主要都市および駅へ菊人形を送りこんで宣伝に努めました。

その第一陣として、福井市だるま屋玄関わきに、カメにまたがった浦島太郎の菊人形が飾られました。



ミス菊人形の歴史 I

▼第1回 森本千恵子さん 炭屋泰子さん
(昭和52年) 西岡希余子さん



▲第2回 玉村孝子さん 橋本昌枝さん
(昭和56年) 鈴木芳枝さん 朝日優里さん 谷口通代さん

▼第3回 和田佳子さん 倉内雅代さん
(昭和57年) 上島由美さん 小棹ユミさん 堀江由美恵さん



▲第4回 片粕由美さん 山本尚美さん
(昭和58年) 堀 昌子さん 山田久子さん 坂東章子さん

▼第5回 達川公子さん 山内由子さん
(昭和59年) 大越幸恵さん 西岡靖子さん 中嶋祐子さん



昭和30年代の菊人形記念たばこ



▲第6回 西田まさこさん 松井春美さん
(昭和60年) 渡辺裕美さん 山田佳代子さん 慶秀山美子さん

宣伝カーやアドバルーン

(昭和三十一年)

九月五日、宣伝カー「やまびこ号」で本格的な宣伝を始め、武生を皮切りに鯖江、福井、敦賀などや石川県下各地も巡回し、市女子職員による宣伝を行いました。

また、九月一四日には、市役所屋上、福井だるま屋、織協ビルの屋上にアドバルーンを掲げ、菊人形のPRに努めました。

パレードは効果満点

(昭和三十三年)

十月三日、菊人形演芸館に出演する市川少女歌舞伎一行二十人をジープ六台に乗せ、武生、鯖江、福井で菊の花や風船を通行する人

に手渡しました。とても好評で宣伝効果抜群でした。

一方、商工振興会青年キャラバン隊では、ゆかた姿で「ぎんれい号」に乗り、県下の各市町村で武生ばやし、豊年踊りなどを披露し、宣伝活動に一役買いました。

また、菊人形開会式や期間中に、福井新聞社がチャーターしたセスナ機を三回飛ばし、県内各地へ宣伝ビラと無料招待券をばらまきました。

これに加えて、このころからボスター掲出も金沢鉄道管理局内の列車、各駅には、富山、新潟からのお客も増えてきました。

県内から県外へ

(昭和三十三年)

九月一日、市の広報車「ぎんれい」にたけふ菊人形の宣伝文字を入れ、県内はもちろん石川、富山まで繰り出しました。

この「ぎんれい」にはちょっとした仕掛けがあり、車内から幻灯機でスリガラスに菊人形のカラーイラストを映し、テープレコーダーから音楽説明が流れる仕組みで、行く先々で人々に紹介していました。



市民参加の宣伝隊

(昭和三六年)

十月八日、宣伝隊は、福井市内で武生市レクリエーションクラブのメンバー約二十人による「武生ばやし」や「北陸盆うた」を披露しました。踊り子の中には、この春鹿兒島から集団就職したという人も混じっており、ほとんどが十代の娘さんたちでした。一行は福井市内をパレードした後、鯖江、織田町などを巡回しました。



目抜き通りにフラワーボックス

(昭和五〇年)

十月一日、たけふ菊人形を間近に控えて、会場までの幹線道路にフラワーボックスを置きしました。商店街の協力を得て、置かれたフラワーボックスは千三百個。菊人形が二五周年を迎えるのを記念し、市内を菊一色で飾りつけようという目的で行ったものです。

ミスたけふ菊人形がPR

(昭和五二年)

初代ミス菊人形に選ばれた三人(森本さん、炭屋さん、西岡さん)が宣伝隊に加わり、いっそう華やかさを増しました。

この時のユニホームは、かすりの着物で、パンフレットを配ったり、商品の当たるクイズを楽しんでもらったりして、PRに一生懸命でした。

市長も宣伝に一役

(昭和五三年)

八月三十一日、笠原市長、市議会菊人形特別委員会委員長をはじめとする宣伝隊が、国鉄武生駅を皮切りに出向宣伝を行いました。

北田野保育所では、八十人の園児に風船を配り、「お父さんやお母さんといっしょに来てください」と宣伝。

宣伝隊は、菊人形オープン近くまでに、県内外へ宣伝に行き、お楽しみクイズやポラロイド撮影、ハンカチプリントなどの企画を用意して菊人形の宣伝を行いました。

ミス菊人形の歴史II

▼第7回 岩倉ひとみさん 米沢博美さん
(昭和61年) 古川美裕紀さん 水上ひとみさん
松下佳江さん



▲第8回 成田雅子さん 斎藤久美子さん
(昭和62年) 清水松美さん 片岡雅代さん
高山美知代さん

▼第9回 木原峰子さん 居軒真由美さん
(昭和63年) 山本陵子さん 稲毛山美さん
大沼真山美さん



▲第10回 坂下みどりさん 佐竹留美さん
(平成元年) 前田美恵さん 多田晴美さん
増澤ゆう子さん

▼第11回 佐藤陽子さん 佐々木節美さん
(平成2年) 黒田千尋さん 森山世依子さん
長谷川千江子さん



▲第12回 袁輪智恵美さん 水嶋公江さん
(平成3年) 森本与子恵さん 日谷知美さん
渡辺里香さん

(才蔵) サ、マダマダ
(太夫) 市民の作った菊展示
(才蔵) サ、マダマダ
(太夫) 全日本の腕比べ、菊の芸術並びます。世界の菊も尾とらじと 菊人形に花添える
(才蔵) アッサレーヤレヤレ、そりやまたなんとしたえらいこっちゃ 世界の自慢が並ぶとは、どうでもこうでも見ておくれ
(太夫) サ、子供に人気の遊園地ビックリ仰天、バイキング 天まで登る心地よさ。さてそれからは観覧車
(才蔵) アッサレーヤレヤレ、そんなもんですみやせぬ 武生名物、物産展 大劇場では、レビュショー 歌と踊りのO・S・K ラインダンスはまぶしいのう。ドキドキ、ワクワク、こりやまた、えらいこっちゃ、お父つあん。でも、見るだけではつまらんのう
(太夫) サ、食いしんぼうの、才蔵じゃ 食べておいしい、菊の花 菊の料理もさまざまや 菊まんじゅうに、菊グラタン、菊酒、菊そば、菊つくし 不老長寿によく効く
(才蔵) アッサレーヤレヤレ、こりやまたなんとけつこうなもんや 不老長寿によく効く 菊の花とは、ヤレヤレまざいじや

(太夫) サ、食べておいしい、菊の花 高血圧に、狭心症、頭痛にめまいに、ほけに効く ンレ万能に菊の花
(才蔵) アッサレーヤレヤレ、ナントマアケッコいな花じゃ、菊の花 花は、見てよし、味もよし。健康づくりに まちづく
(太夫) サ、菊を愛する武生市民、思いやりと、やさしさの、みんなで作る菊トピア。きれいなまちに花が咲く 住みよいまちに人は住む
(才蔵) アッサレーヤレヤレそうじゃ、そうじゃ、その通り。住みよいまちに人は住む 文化のまち、武生市
(太夫) 伝統産業とハイテクのまち、武生市
(才蔵) 菊いっぱい武生市
(太・才) サ、「まちに花、ひとに夢」の合言葉、アーラ、めでたや菊トピア。皆様のご来場をお待ちしての御萬歳 エンヤコーラサノサノエー
「何かおもしろい方法はないかなあ。」と毎年悩むのが、菊人形出向宣伝のオープニング。課員の一人の「越前万歳でしうか。」この言葉に乗せられたのが運の尽き、毎日毎日テープを聞き、夢の中でも越前万歳が流れてくる始末。何度バンザイしようかと考えました。(テケテケテン)

菊ちゃん竹ちゃん登場

(昭和五六年)

菊人形三〇周年を記念して、菊人形のマスコットが登場しました。

市の花「菊」市の木「竹」をモチーフとしたマスコットキャラクター菊ちゃんと竹ちゃんを作り、テレビのCMにも登場しました。

ぬいぐるみもさっそく作り、出向宣伝隊に加わり子供たちのアイドルとして愛敬をふりまきました。



近年の宣伝活動

(昭和五六年から現在まで)

昭和五六年を機に、宣伝方法もメディア中心となり、テレビやラジオなどの活用を重視したのになってきました。

この頃から、毎年ミス菊人形五名によるソフトな宣伝となり、県内外のテレビ局との協力により、より確かなPRを進めることができました。

春からは、旅行者へ菊人形PRのため、武生市議会菊人形特別委員会委員と市職員で、北陸はじめ中京、近畿方面など約六百社を毎年訪問、この地道な宣伝も確実な歩みを示しています。

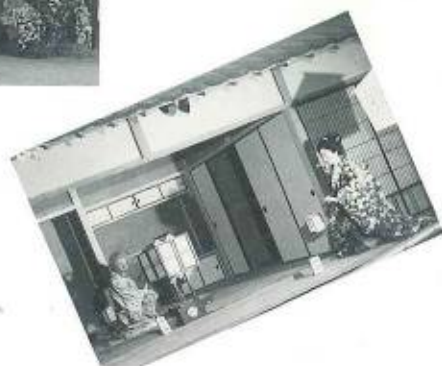
一方、宣伝のために菊人形をJRの主要駅に展示、北陸の秋の風物詩として定着しています。

宣伝範囲も五七年からは武生市と友好都市の高山市へ、五八年は京都、名古屋にまで、平成元年、二年は新潟までの出向宣伝を行いました。

そして、平成三年は武生市伝統の越前万歳(野大坪万歳)を取り入れたパフォーマンスで、県内外に宣伝を行いました。

覚えていきますか

懐かしいあの場面



第一回(昭和二十七年)

- 一、車引
- 二、竜門寺信長観菊の宴
- 三、佐賀の怪猫
- 四、文覚上人
- 五、大江山
- 六、阿古屋の琴責め
- 七、越前小鍛冶
- 八、文福茶釜

見流館面積 一八〇坪

第八回(昭和三十三年)

- 一、太平楽
- 二、北野の茶会
- 三、那須の大八
- 四、神崎与五郎
- 五、勿来の関
- 六、どんぐりころころ
- 七、矢矧橋
- 八、汽車ボッポ
- 九、暫
- 一〇、源氏物語
- 一一、新田義貞
- 一二、羽衣
- 一三、巴御前

第七回(昭和三十三年)

- 一、金太郎
- 二、大菩薩峠
- 三、里見八犬伝
- 四、阿国歌舞伎
- 五、紫式部
- 六、岩見重太郎のヒヒ退治
- 七、弥次喜多道中
- 八、雨降りお月さん
- 九、天の岩戸
- 一〇、姉川合戦
- 一一、桜田門
- 一二、赤同鈴之助

第三回(昭和二十九年)

- 一、加藤清正
- 二、たぬきばやし
- 三、吉崎の嫁おどし
- 四、鉢の木
- 五、国定忠治
- 六、お猿のかごや
- 七、森の石松
- 八、小判鮫
- 九、白鳥の湖
- 一〇、鯉つかみ

- 五、牛にひかれて善光寺詣
- 六、四谷怪談
- 七、月形半平太
- 八、楊貴妃
- 九、見てござる
- 一〇、那須余市
- 一一、宮本武蔵
- 一二、安土城の謁見



第二回(昭和二十八年)

- 一、醍醐の花見
- 二、佐倉義民伝
- 三、花咲爺
- 四、福井の殿様お国入り
- 五、寺田屋騒動
- 六、浅茅ヶ原の一家
- 七、義士の討入り
- 八、自雷也
- 九、俊寛
- 一〇、可愛い可愛い魚屋さん
- 一一、安宅の関
- 一二、三人奴

- 一、連獅子
- 二、石童丸
- 三、桜門五三桐
- 四、羅生門
- 五、孫悟空
- 六、桃太郎
- 七、滝の白糸
- 八、二宮金次郎
- 九、吉野山雪の別れ
- 一〇、通いんせ
- 一一、保元の乱
- 一二、御前角力
- 一三、金閣寺



第四回(昭和三十一年)

- 一、大坂夏の陣
- 二、一寸法師
- 三、養老の滝
- 四、水戸黄門



第一〇回(昭和三十六年)

- 一、蝶々婦人
- 二、壇ノ浦の合戦
- 三、司馬温公
- 四、金魚のひるね
- 五、佐々木小次郎
- 六、日蓮上人浪題目
- 七、左甚五郎
- 八、山寺の和尚さん
- 九、牛若丸(五条の大橋)
- 一〇、曾我の対面

第一一回(昭和三十七年)

- 一、歴史名場面集
- 二、紫式部
- 三、国姓爺合戦
- 四、平治の乱
- 五、八岐の大蛇
- 六、壺坂霊験記
- 七、蒙古襲来
- 八、北の庄



第九回(昭和三十五年)

- 一、大江山酒香童子
- 二、しあわせの日
- 三、道長の乱脈
- 四、怒りの若武者
- 五、大江山に來た男
- 六、鐙鳴る太刀
- 七、一条戻り橋
- 八、網の館
- 九、土蜘蛛
- 一〇、大江山中妖怪退治
- 一一、大江山の最後



第二三回(昭和三十九年)

「日本芸能祭」

- 一、蘭陵王と納蘇利
- 二、菊慈童
- 三、釣狐
- 四、助六
- 五、黒塚
- 六、新内節
- 七、乗合船
- 八、赤穂浪士
- 九、神田祭
- 〇、越後獅子
- 一、げらげら劇場

第四回(昭和四〇年)

「戦国の三大武将」

- 一、秀吉と秀頼
- 二、信長とキリシタンの謁見
- 三、家康と木村重成
- 四、柔
- 五、竹取物語とかぐや姫
- 六、池ノ上蛇の池伝説

新設見流館「おとぎの国」

- 一、ピノキオ
- 二、ダンボ
- 三、ピーターパン
- 四、白雪姫
- 五、不思議の国のアリス
- 六、眠れる森の美女

*第二見流館完成

第一五回(昭和四一年)

「菊人形名作場面集」

- 一、博多山笠祭
- 二、ねぶた祭
- 三、天神祭とまくら太鼓
- 四、金色夜叉
- 五、とんま天狗の化物退治
- 六、妖術くらべ
- 七、地獄変
- 八、百合若大臣
- 九、巴御前

見流二号館……日本童話館

- 一、狼少年ケン
- 二、桃太郎鬼退治
- 三、金太郎
- 四、鉄腕アトム

第一六回(昭和四二年)

「歌舞伎豪華名場面集」

- 一、暫
- 二、桜門五三桐
- 三、道中初音旅
- 四、お三輪の恋(願糸縁字環)
- 五、北条九代名家功
- 六、一谷嫩軍配
- 七、京人形
- 八、哀しき雛祭り(妹背山・女庭訓)
- 九、小鍛冶
- 〇、忠臣蔵
- 一、土蜘蛛
- 二、宮さん宮さん

見流二号館



第一九回(昭和四五年)

NHK大河ドラマ

「太閤記」

- 一、矢矧橋
- 二、ぞうり取り
- 三、三日普請
- 四、桶狭間の合戦
- 五、ねねとの結婚
- 六、姉川の合戦
- 七、小谷城の落城
- 八、本能寺の変
- 九、大坂城の築城
- 〇、醍醐の花見

第二〇回(昭和四六年)

NHK大河ドラマ

「春の坂道」

- 一、一刀岩
- 二、無刀取り
- 三、説得
- 四、忍者
- 五、猛将 島左近
- 六、関ヶ原合戦
- 七、敗軍の将
- 八、柳生の里
- 九、見合
- 〇、千姫救出
- 一、自決
- 二、竹千代と七郎
- 三、辻斬り
- 四、参勤交代
- 五、家光の嘆き

第二二回(昭和四七年)

NHK大河ドラマ

「新平家物語」

- 一、敵島神社
- 二、忠盛邸
- 三、叡山の強訴
- 四、鎮西八郎為朝
- 五、保元の乱
- 六、妓王と仏御前
- 七、伊豆の頼朝
- 八、五条の大橋
- 九、火の病
- 〇、俱利伽羅峠
- 一、熊野権現前
- 二、壇ノ浦合戦
- 三、大原御幸

第二三回(昭和四八年)

NHK大河ドラマ

「国盗り物語」

- 一、嫁ぐ日
- 二、乞食庄九郎
- 三、油屋庄九郎
- 四、虎の瞳
- 五、火炎車
- 六、白雲法師
- 七、稲葉山城
- 八、妖怪
- 九、国主追放
- 〇、たわけ殿信長
- 一、金ヶ崎城の奮戦
- 二、諫止
- 三、敵は本能寺



- 一、目で見る国体展
- 二、お子さまコーナー
(怪獣ジラース)

第二七回(昭和四三年)

日本昔話名場面集

- 一、大江山の酒呑童子
- 二、浦島太郎と乙姫
- 三、はまぐり姫
- 四、サルカニ合戦
- 五、こぶとり爺さん
- 六、鞍馬の牛若丸
- 七、文福茶釜
- 八、鶴の恩返し
- 九、花咲爺さん

見流二号館

(まんがコーナー)

- 一、黄金バット
- 二、グズラ
- 三、リボンの騎士
- 四、パーマン
- 五、ロボタン
- 六、ひょっこりひょうたん



第三三回(昭和四九年)

NHK大河ドラマ

「新八犬伝」

- 一、伏姫と八房
- 二、八房の手柄
- 三、とびちった八つの玉
- 四、美少年と美少女
- 五、敵討ち
- 六、茅流閣の戦い
- 七、ふかあみ笠の浪人
- 八、旦開野
- 九、庚申山の山猫
- 〇、赤岩一角の正体
- 一、闘牛
- 二、湯島のくすり売り
- 三、妙椿の正体

第二四回(昭和五〇年)

NHK大河ドラマ

「元禄太平記」

- 一、將軍お成り
- 二、大奥

- 三、高田の馬場
- 四、お犬さま
- 五、兵庫とおしん
- 六、松の廊下刃傷
- 七、惜別の涙
- 八、早駕籠
- 九、城明け渡し
- 〇、墨染の里
- 一、討入り

第二五回(昭和五一年)

NHK大河ドラマ

「風と雲と虹と」

- 一、坂東武者
- 二、一家の当主となる
- 三、京の都で純友と会う
- 四、純友西へ
- 五、将門追捕使とともに西へ
- 六、坂東へ帰る
- 七、一族と対立
- 八、貞盛の弔合戦
- 九、再び京へ上る
- 〇、貴子との再会
- 一、一族との抗争急展開
- 二、将門の武名高まる
- 三、将門討死
- 四、大空の虹のごとく





- 第二〇回(昭和五六年)
- NHK大河ドラマ
- 「おんな太閤記」
- 一、出会い
 - 二、城主の妻
 - 三、名譽ある茶会
 - 四、運命の道
 - 五、落城の悲劇(北の庄落城)
 - 六、覇者の妻「北政所」
 - 七、政略結婚
 - 八、聚楽第
 - 九、豊臣家の母
 - 〇、不吉な予感
 - 一、醍醐の花見
 - 二、秀吉の死の波紋
 - 三、関ヶ原の戦い
 - 四、豊臣家の終焉

- 第三二回(昭和五七年)
- NHK大河ドラマ
- 「峠の群像」
- 一、高田馬場の決闘
 - 二、赤穂浅野家
 - 三、出会い
 - 四、水戸光圀と將軍綱吉
 - 五、松山城接収
 - 六、松の廊下
 - 七、悲報、赤穂へ
 - 八、それぞれの道
 - 九、内蔵助と妻
 - 〇、決意
 - 一、祇園の内蔵助
 - 二、討入りI
 - 三、討入りII
 - 四、大願成就



- 第三六回(昭和六一年)
- NHK大河ドラマ
- 「独眼流政宗」
- 一、独眼流政宗
 - 二、政宗誕生
 - 三、虎哉禪師
 - 四、めぐとねこ
 - 五、輝宗無残
 - 六、人取橋の合戦
 - 七、決戦・摺上原
 - 八、小田原参陣
 - 九、黄金の十字架
 - 〇、伊達者
 - 一、秀次謀反
 - 二、関ヶ原

- 第三七回(昭和六三年)
- NHK大河ドラマ
- 「武田信玄」
- 一、晴信をめぐる女性たち
 - 二、父と子の確執
 - 三、武田軍議
 - 四、晴信と湖衣姫
 - 五、女のいくさ
 - 六、国造り
 - 七、天才と秀才
 - 八、三国同盟
 - 九、越後の虎
 - 〇、激突 川中島
 - 一、激突 川中島(四頭八尾鶴翼の陣)
 - 二、激突 川中島
 - 三、激突 川中島(一騎討ち)
 - 四、三ヶ原の戦い
 - 五、はるかかなる京への道



- 第三八回(昭和五四年)
- NHK大河ドラマ
- 「草燃える」
- 一、政子の恋
 - 二、頼朝の挙兵
 - 三、再起への道
 - 四、鎌倉の春
 - 五、稚い恋
 - 六、壇ノ浦合戦
 - 七、逃亡者たち
 - 八、母と子の亀裂
 - 九、二代將軍頼家
 - 〇、不肖の子
 - 一、都好み
 - 二、幻の船
 - 三、実朝暗殺
 - 四、承久の乱

- 第三九回(昭和五五年)
- NHK大河ドラマ
- 「獅子の時代」
- 一、パリ万国博覧会
 - 二、追跡
 - 三、暗雲の日本
 - 四、鶴ヶ城落城
 - 五、五稜郭戦争
 - 六、光と影
 - 七、下北半島 斗南藩
 - 八、東京の日々
 - 九、西南戦争
 - 〇、自由自治元年



- 第三三回(昭和五八年)
- NHK大河ドラマ
- 「徳川家康」
- 一、別れ
 - 二、出陣
 - 三、一家団らん
 - 四、真柄十郎左衛門の最期
 - 五、三ヶ原の戦い
 - 六、鳥居強右衛門の最期
 - 七、武田氏滅亡
 - 八、本能寺の変
 - 九、和議
 - 〇、関白義弟
 - 一、朝鮮国撤退
 - 二、関ヶ原の戦い
 - 三、方広寺鐘銘事件
 - 四、堂々の生涯

- 第三四回(昭和六〇年)
- NHK大河ドラマ
- 「真田太平記」
- 一、岩櫃城
 - 二、高遠落城
 - 三、草の者
 - 四、真田の庄
 - 五、地獄の間
 - 六、上杉との和睦
 - 七、沼田城
 - 八、関ヶ原
 - 九、九度山の庵
 - 〇、真田丸
 - 一、兄弟の別れ
 - 二、兄弟の陣
 - 三、幸村の最期
 - 四、松代への国替



菊人形館

第三八回(平成元年)

NHK大河ドラマ

「春日局」

- 一、乳母 愛の鞭
- 二、父の出陣
- 三、天下取り
- 四、母子無情
- 五、嫁ぐ
- 六、関ヶ原前夜
- 七、戦後の家族
- 八、乳母の条件
- 九、世継ぎ誕生
- 二、あゝ大坂城
- 三、世襲争い
- 三、春日局
- 三、徳川三百年の礎成る

第三九回(平成二年)

NHK大河ドラマ

「翔ぶが如く」

- 一、齊彬と篤姫
- 二、齊彬と西郷
- 三、泣きか翔ぼかい
- 四、江戸に入りて御座候
- 五、鶴籠の先棒をかつぐ
- 六、暗転 錦江湾
- 七、愛加那と西郷
- 八、薩長同盟
- 九、鳥羽、伏見の戦い
- 三、江戸城開城
- 二、白虎隊
- 三、国に帰った西郷

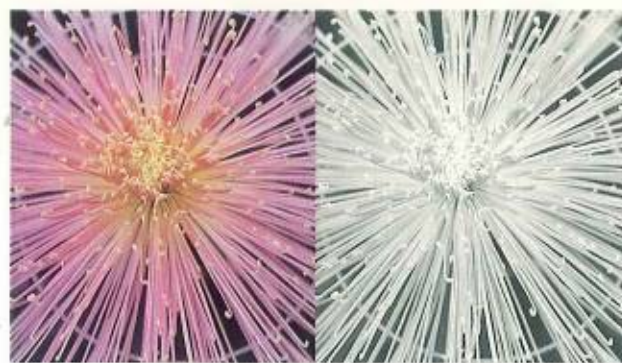
三、西南戦争(田原坂の悲劇)

第四〇回(平成二年)

NHK大河ドラマ

「太平記」

- 一、平氏の犬
- 二、京都の町衆
- 三、藤夜叉の恋
- 四、高氏拳兵
- 五、建武の新政
- 六、湊川の戦い
- 七、南北朝時代
- 八、骨肉の争い
- 九、花開く室町文化
- 二、遊芸の時代



菊人形40回記念誌
資料提供者(敬称略・順不同)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|--------|-----|---------|----|-------|-------|-------|-----|-------|----|-------|
| 前沢 和義 | あおぼ町 | 林 律夫 | 京町二丁目 | 福岡 昭三 | 北府四丁目 | 和田 雅雄 | 村国二丁目 | 脇坂 章 | 敦賀市 | 加賀 次男(故人) | 国府二丁目 | 斎藤 幾一 | 京町一丁目 | 島田 清 | 南三丁目 | 宮脇 豊三 | 北千福町 | 高森 ふさゑ | 蓬萊町 | 前田 宇右エ門 | 北町 | 近藤 一郎 | 北府三丁目 | 西山 幸信 | 住吉町 | 加藤 秀徳 | 柳町 | 福井新聞社 |
|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|--------|-----|---------|----|-------|-------|-------|-----|-------|----|-------|

平成3年10月発行
発行/ 武生市/ 〒915 福井県武生市府中一丁目13-7
☎ 0778(22)3000



▲きくっぴー(菊トピアキャラクター)

▼菊のふるさとトーク



▲古タイヤを使ったプランター

菊トピアが、これからの長い歴史の洗礼を受けながら、必要とされる「文化」として進化させるための鍵は、市民参加以外にありません。

「まちに花、人に夢」、四十年前の先人たちの苦勞と発想を基に、今新たなまちづくりが歩みだしました。

鑑賞用菊としての切り花、鉢植え菊、そして食用菊の栽培です。行政は、菊栽培に関する技術の集積を図るため、菊センターを作り、菊苗の提供や技術指導などに向けた研究に取り組んでいます。

見て楽しんでもらう菊
味わってもらおう菊
菊の総合産地化へ向けて

道路沿いや公園に菊を植える人、廃物の古タイヤをプランターにして菊を植える人、資源のリサイクルやゴミの減量化に取り組む人など、市民のアイデア豊かで自発的な活動が、市民自らによる地に足を付けた力強いまちづくり文化に育ちつつあります。

発進する 菊のまちづくり 「菊トピア」武生

武生市は、千三百年もの昔国府がおかれ、越の国の中心として栄え、今も歴史の深い重厚な文化を、街の随所に感じることが出来ます。

現在の武生市は、人口七万人を擁し、工業出荷額は四千億円を超える、県内トップクラスの工業都市に成長しました。

他に類を見ない、伝統文化とハイテク産業が調和する武生市に、新しい文化が育ちつつあります。観光資源として進化してきた「菊人形」をヒントにした、「菊トピア」がそれです。

市民参加に重点を置き、環境・福祉・教育といった既存の行政枠を取り払ったまちづくりを、文化として取り組もうというのが「菊トピア」事業です。

まちを歩けば
さりげなくそこに花
菊の街づくり

「潤いのある美しいまちを、市民と行政が一つになって創造しよう、まちを花でいっぱいにしよう」個人・町内会・団体・グループなどが環境をグローバルに捕えた活動を始めました。

まちに花、ひとに夢。

菊トピア

菊のまち、たけふ

